

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	O190400309		
法人名	株式会社ふれあいケアサービスHD		
事業所名	ふれあいの里グループホームほしおき(おおぞらユニット)		
所在地	札幌市手稲区星置1条4丁目2番12号星置駅前メデイカル2階		
自己評価作成日	令和5年10月12日	評価結果市町村受理日	令和5年11月17日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigvogyoCd=0190400309-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和5年10月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>【基本理念】</p> <p>①いつも笑顔で暖かく見守ります。 ②目配り、気配り、心配りを大切にしてチームケアを行って行きます。 ③地域との触れ合いを大切にして穏やかな生活をしていきます。 以上の3点を基本とし毎日のケアに励んでいるホームです。 同ビル1階には内科が有りホームの主治医として日、祝日以外は訪問診療の協力を頂いておりその他、健康状態など色々な相談にのっていただいています。当ホームはJR星置駅から数分の場所の為、ご家族の方にとって交通の便もよく面会が多く有ります。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>札幌市郊外のJR星置駅近くにある2ユニットのグループホームである。医療機関が複数入居するビルの2階にあり、1階が内科医院、3階が整形外科医院となっている。銀行やスーパーなどが近く、緑地帯や公園もある恵まれた住環境である。共用空間が広く、壁は白を基調として装飾も多く、明るい雰囲気である。1フロアに2ユニットがあるため利用者や職員が気軽に行き来ができる。職員が明るく丁寧に利用者として接しており、利用者の表情も明るい。管理者は近隣の他の福祉施設との幅広い関係を築き、運営推進会議などを通じて情報交換を行っている。法人が多数のグループホームを運営しているため、各種の書式やマニュアルが整備され、研修体制も整っている。地域との関係では、各種のボランティアの方が事業所を訪れ、利用者や交流している。家族への情報提供の面では、毎月、利用者ごとのお便りと体調の記録を家族に送付し、日常の様子を載せたブログもインターネットに公開して、家族に喜ばれている。受診支援の面は、個人別の往診は月2回だが、ほぼ毎日利用者の誰かが往診を受けており、利用者の誰かに変化があればすぐに診てもらえる状況となっている。排泄や入浴の面では、利用者の状態や希望に沿って支援している。快適な環境と行き届いた支援のもと、安心して生活できるグループホームである。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる(参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています(参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある(参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている(参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている(参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている(参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている(参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている(参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている(参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている(参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている(参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事務所・各ユニットに掲げ申し送り時に唱和し理念を共有しており実践に繋げている。	3項目からなる事業所独自の理念の中で「地域とのふれあいを大切に」という文言があり、地域密着型サービスの意義を踏まえている。理念を事務所や各ユニットに掲示し、申し送り時に唱和し共有している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の参加やボランティアを招いての行事など、地域との繋がりを大切にし交流している。	ボランティアの方が事業所を訪れ、歌や楽器、踊り、手品などを披露して利用者とは交流している。感染症流行前は利用者が地域の高齢者の集まりや行事に参加していた。流行が落ち着いたらまた参加したいと考えている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通して、ご家族・町内会連合会・地域包括支援センター・医療関係者、他施設などに認知症ケアの理解や支援方法の話し合いや説明を行い取り組んでいる。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	サービスの実施状況や活動報告、自己評価及び外部評価の結果についても話し合い意見を取り入れ検討し、またテーマを決め、他職種との関わりなどを知る機会を設け、向上に活かされている。	会議は2か月ごとに開催され、地域包括支援センター職員、町内会役員、民生委員、複数の家族、福祉関係の有識者の参加を得ている。感染症対策、施設による違いなど、テーマを設けて意見交換している。議事録を家族に送付している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	札幌市・手稲区の管理者会議に参加し事業所側からも積極的にケアサービスの取り組みを伝え、協力関係づくりを実施している。	運営推進会議で地域包括支援センター職員から情報提供を受けている。市や区といつでも相談できる関係を築いている。今年度は市に依頼し、事業所に保健所の看護師を講師に招いて感染症に関する研修を開催している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修や勉強会で得たものを事業所で全体に周知徹底し、支援についての話し合いを行い身体拘束0のケアに取り組んでいる。また、朝/夕の申し送り後に、虐待の定義を唱和し、意識づけをしている。また不適切ケア防止委員会を実施し、再認識の機会も設けられている。	身体拘束を行っておらず、禁止の対象となる具体的な行為を示したマニュアルを用意し、年2回勉強会を行っている。年4回の委員会も開催している。各ユニットからエレベーターホールへのドアに鍵を掛けているが、利用者でも簡単に開けることができ、自由に出入りできる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束同様に、研修にも積極的に参加し虐待の防止に努め、職員同士も、見られている事を意識し、注意を払っている。		

ふれあいの里グループホームほしおき

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	定期的な研修への参加や自己学習を通じ、理解を深め、活用できるよう支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時・解約時は重要事項を分かり易く説明し、不安の残らない様に理解・納得を図っている。改定時には本社からの書面での説明や、ご家族の来訪時などにも対応している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談窓口を設置し体制づくりをしている。来訪時なども話しやすい環境を作り、意見などあった場合は検討し反映に繋げている。	運営推進会議や普段の面会で家族が頻繁に来訪し意見を得ている。家族の意見や要望を申し送りノートに記載し共有している。毎月、利用者ごとのお便りと体調の記録を作成し家族に送付している。日常の様子を載せたブログも公開している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員が意見や提案を出来る様な機会を設け、反映されるように努めている。	月1回、2ユニット合同の会議があり職員は活発に意見交換している。管理者は職員と定期的に個別面談を行っている。職員は備品管理やブログ作成を係として受け持ったり、行事を交代で担当し、運営に参加している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個別に面談を行う機会の他、普段から話やすい環境作りに努めている。状況に合わせ環境・条件の整備に努め、各自が向上心を持って働けるよう行われている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内の研修では個々に合わせた(職種・階層・目的別など)活かされた研修が実施される他、eラーニングを用いて、どの職員もスキルアップに繋がっている。また、資格取得制度もあり、職員の向上心にも繋がっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修などの機会や、た事業所の訪問を行い、ネットワーク作りに努めサービスの質の向上に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人と会話の機会を設け、希望または状況の把握に努め、安心出来る様な関係作りを実施している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族が、良い事も悪い事も含め、感じている事に耳を傾け、不安の残らない様に関係作りにも努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所時は不安や困り事も多いなか、どのような支援を必要としているのかを見極め相談し対応している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一方的な支援にならない様に、ご本人の状況に合わせて出来る事を一緒にして頂き、信頼し合えるような関係作りにも努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の来訪時にはご本人を交えての会話の場を作り、絆を大切にしながら共に支え、馴染みの関係として信頼を得られるよう対応している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人・知人も気軽にいつでも来訪出来る様配慮し、途切れる事の無いよう支援に努めている。	遠方から同級生が来訪する利用者がある。友人や知人から手紙や電話が来た際は取り次いだり、手紙の返事の作成を支援することもある。家族と一緒に墓参りや外出に行く方もいる。今後は近くへの買い物での外出を再開する予定としている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し、ご本人同士のコミュニケーションにトラブルのない様介入している。集団参加を通じ各自が孤立せず関わりが持てるように支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて対応し支援に努めている。またご家族から退去後の様子もご連絡頂いたり、これまでの関係から、ボランティアの継続もして頂いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個々の思いを大切にし意向に沿えるよう、常にご本人を主体に検討している。また、B3シートを用いて、どのような思いがあるのか、把握に努めている。	言葉で思いや意向を表出できる方は半分ほどで、難しい場合は表情や過去の経験をもとに把握している。フェイスシート、アセスメントシートがあるが、生活歴や趣味・嗜好などの情報は少ない。	アセスメントシートの生活歴(B-2)や趣味・嗜好(B-3)の情報を整備し、共有することを期待したい。また、情報の定期的な追記や更新も期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	フェイスシート・B3シートを活用し情報を共有、またご本人様との会話の中からも情報を引き出し把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々に沿ったその人らしい生活の仕方や現状の把握に努め、個別ケアに繋げている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	事前に各自シートを記入し、月に1回の会議でモニタリングを実施し現状に即した介護計画を作成している。ご家族が望んでいる事も含め、必要なケアについて話し合いを行っている。	介護計画を6か月～1年で見直し作成している。見直し時の評価表や会議録の作成手順について整備を進めているところである。パソコンやタブレット端末で日々の記録を行っているが、介護目標を意識した記録は十分にできていない。	見直し期間が1年の場合でも、少なくとも6か月で介護目標に関する評価の実施と評価表の作成を期待したい。また、記録システムの「ケース」欄などを活用して介護目標を意識した記録の作成を期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録は、ipadが導入され、パソコンで管理され、すぐに情報を共有できる体制づくりができており、介護計画の見直しに活かされている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人・ご家族の状況に対応し、柔軟な支援に繋げる取り組みに努力している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご本人が心身の力を発揮できるよう地域資源を活用し、ご本人の暮らしに楽しみをもち、豊になる様、協力を得て取り組まれている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	当ビル内1階の内科に主治医がおり訪問診療を通じて支援しご家族の協力や納得も得られている。また、体調の変化時には、早急に受診・対応が受けられるよう、支援している。	建物の1階に協力医療機関の内科があり、各利用者が月2回の往診を受けている。歯科の往診体制も整っている。受診記録や訪問看護の記録が見やすく整理されている。	

ふれあいの里グループホームほしおき

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	主治医でもある内科の看護師が医師の指示のもと支援され適切な受診に繋がっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	日頃より医療関係者との情報交換を密にし関係作りに努めている。入院時には介護添書にての情報提供や早期退院時にはソーシャルワーカーからの情報で相談しご家族と連絡を取り受け入れ対応に努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に十分な説明を行い、ご本人が重度化した場合は早い段階から医師と相談しご家族とも話し合いご本人にとって最適な方法で、地域の関係者と連携し、支援に取り組んでいる。	利用開始時に「ご利用様が重度化した場合の対応に係る指針」を説明し、署名捺印を得ている。医療行為が必要となる場合の看取りは難しい旨を伝え、家族の理解を得ている。重度化した場合は他の施設にスムーズに移れるよう支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時・事故発生時のマニュアルがあり、指示のもと対応ができるように取り組んでいる。応急手当のマニュアルはあるが、全職員が対応できるかが課題。今後は訓練にも力をいれ、実践力を身につけていく。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災に関しては昼・夜を想定し消防署員立ち合いのもと行い助言も頂き活かされている。地震・水害についての訓練は一定化していない為、今後は行っていきたい。地域との協力は日頃から体制づくりに努めている。	年2回の昼夜を想定した火災および地震の避難訓練を実施している。訓練には建物内の他施設、隣接施設の協力を得ており、感染症が落ち着いたら消防署への指導依頼を行う予定である。職員の救急救命訓練を近々行う予定である。	

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	全職員がご本人の尊厳やプライバシーに留意し言葉かけや対応を常に意識し対応に努めている。また、不適切な言葉かけとはどのような事があるかなどを話し合い、意識して対応に努めている。	法人研修で接遇を学んでいる。内部研修では不適切なケアから命令的な口調になっていないかを確認している。申し送りの際に利用者に聞こえないよう配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人が何を希望しているか遠慮なく表せるよう傾聴し自らが選択・決定できる様な働きかけを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々のペースを大切にし、日課の流れに縛られる事の無い様、ご本人を中心に考え出来る限り希望に沿えるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしさを大切にし身だしなみやおしゃれが出来る様に支援している。隔月に訪問理美容サービスがありそれぞれがご自分の希望で髪染もされている。化粧については、継続が難しくなっている事が課題。		

ふれあいの里グループホームほしおき

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	下準備・味見・後片付けなどその人が出来る事を一緒にやっている。食事と同じテーブルで会話も交え楽しめる時間になるよう努めている。	献立に季節料理や誕生日には、ちらし寿司などを盛り込んで楽しめるように工夫している。好みで調理の方法を替えることもある。利用者は食器拭きなどの後片付けに参加している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士作成の献立をもとにバランスの整った食事ができる。また食べやすい大きさや柔らかさにも留意している。水分摂取も全職員が把握し支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々に応じたケアの支援や介助を行っている。訪問歯科で口腔状態に対応し常に清潔の保持に努めている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々のパターンを把握しトイレでの排泄に繋げている。チェック表を用いて職員が情報の共有をしている。声掛けにも工夫し配慮して自立に向けた支援に取り組んでいる。	排泄表で全員の状態を把握し、日中はトイレで行い声かけなど羞恥心に配慮しながら誘導している。夜間にはベッド上で交換している方も数人いるがパット類を工夫し自立に向けて支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	牛乳・ヨーグルト・乳酸菌飲料を用いているが、他にも腹部のマッサージや活動により自然排便に繋がる支援をしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	声掛けの工夫やタイミングを見計らい楽しんで入浴が出来るように支援している。その日の状態に応じながらご希望にそえるよう努めている。	いつでも入れるようにし、午前を中心に一人当たり週2回としている。希望や状況で回数が増えることもある。同性介助の意向にも応じている。シャワー浴や湯船に浸かり、気持ちよく入浴ができるように工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活習慣に配慮しご自分のペースで休息とられている。室温・湿度の環境整備や、眠れないとの訴え時は安心して入眠できる様、談話やホットミルクの提供にて対応を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	誤薬防止の方法を統一・徹底をし、支援している。薬の変更時には常に状態観察をし把握に努めるよう全職員が取り組んでいる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	レクの種類や内容の工夫をし、参加を通じて気分転換を図れている。個々の状況に応じ生活リハも取り入れ役割を持てるように支援している。		

ふれあいの里グループホームほしおき

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご家族との外出の支援は常時行っている。季節により、日常的に戸外へ外出するのは難しくなっている部分もあるがご本人の状況に合わせご希望に沿えるよう努力している。	暖かい時期には玄関前に椅子を置き日光浴を楽しんでいる。車いす利用者も一緒に散歩し隣りの団地内にある東屋で休憩することもある。家族と墓参りや外食などに出かける方もいる。感染症が落ち着いたら外出行事を再開したいと考えている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	会社の方針により金銭は事務所で預かりしている。買い物の際、ご自分で購入されたものの支払いは職員と一緒にしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の希望に応じていつでも電話が出来る様に支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	落ち着いて過ごせるよう居心地の良い環境づくりに努めている。季節感のある飾り付けや日付も分かり易いようにしている。また共用の場は常に清潔を保つように職員も気をつけている。	建物の2階を改装した2ユニットは広さや造りの違いを活かし、居心地よく過ごせるように工夫している。居間に食卓テーブルとソファを配置し窓から日が差して明るい。壁には利用者も参加した季節の作品が飾られている。飾り花や雑誌類が置かれおり家庭的な雰囲気作りになっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	その時に合わせ席を移動したりソファを活用し談話されたりと、思い思いに過ごす事ができている。隣のユニットへも訪問し気の合った方々の交流も図れている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたものや馴染みの物をご家族とも相談の上配置し安全にも考慮した居住空間づくりがされている。	居室にはクローゼットが備えてあり、馴染みのものが持ち込まれている。身体状態に合わせてベッドレンタルを利用している方もいる。テレビ、日用品、本などが置かれている。壁には職員のお祝いメッセージが貼ってあり温かみを感じられる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	室内はバリアフリーになっており移動に不便がないようになっている。洗面所・台所・トイレも分かるようになっており自立に繋がるような空間づくりに努めている。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	O190400309		
法人名	株式会社ふれあいケアサービスHD		
事業所名	ふれあいの里グループホームほしおき (だいちユニット)		
所在地	札幌市手稲区星置1条4丁目2番12号星置駅前メデイカル2階		
自己評価作成日	令和5年10月12日	評価結果市町村受理日	令和5年11月17日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigvsoCd=0190400309-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和5年10月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>【基本理念】</p> <p>①いつも笑顔で暖かく見守ります。 ②目配り、気配り、心配りを大切にしてチームケアを行って行きます。 ③地域との触れ合いを大切にして穏やかな生活をしていきます。 以上の3点を基本とし毎日のケアに励んでいるホームです。 同ビル1階には内科が有りホームの主治医として日、祝日以外は訪問診療の協力を頂いておりその他、健康状態など色々な相談にのっていただいています。当ホームはJR星置駅から数分の場所の為、ご家族の方にとって交通の便もよく面会が多く有ります。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価 (だいちユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所と各ユニットに掲示している。また、朝・夕の申し送り時に唱和し、共有している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し、会議にも参加している。月に1回ボランティアを招き、手品と歌を披露して頂いている。また、見学者を積極的に受け入れ、交流を大切にしている。地域のボランティアが来訪され、フラダンス・詩吟等を披露して下さる機会もある。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	2か月に1回運営推進会議を開催し、ご家族や町内会地域の住民や地域包括支援センター・老人施設関係者の参加を得て、認知症ケアについての情報交換を行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、毎月の行事の取り組みの様子や日常の様子を伝え、自己評価や外部評価の項目についても触れる機会を持っている。また、現在抱えている問題点や改善されたことなど話し、情報共有の場となっている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	札幌市手稲区の管理者会議に出席し、事業所の実情やケアサービスについて話す機会を持ち、協力関係を構築している。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3か月に1回「不適切ケア防止委員会」を各ユニットより委員を選出し行っている。現状の事案について話し合い、委員会の記録を全職員に開示し、意識を高めている。また、朝夕の申し送り時に虐待の定義を唱和し意識づけを行っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束と同様に話し合う機会を持ち、全体に内容を開示する事で、防止に努めている。		

ふれあいの里グループホームほしおき

自己評価	外部評価	項目	自己評価（だいちユニット）	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会への参加、報告書の提出を行う事で、全体が学ぶ機会を設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、解約時には、重要事項を分かり易く説明し、理解、納得を図っている。改定時には、本社より書面で説明、ホームでは、管理者が説明をしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	本社に苦情相談窓口を設置し体制づくりをしている。また、ご家族の来訪時には、話しやすい環境づくりに努めている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月行われる職員会議の中で、意見や要望を聞き、月例会議にて運営者に報告をしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は、職員と個別面談をする機会を持ち、意見交換や要望を聞くことで、向上心を持って働けるよう環境を整えている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格の持たない職員に対し、初任者研修・実務者研修を受講する機会を持ってもらい、職員のスキル向上に役立っている。社内研修では、個々に合わせた活かされた研修が実施される。また、eラーニングを用い、職員のスキル向上に繋げている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同法人の内部研修の中で交流する機会を設け、サービス向上に役立っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価（だいちユニット）	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に面談を行い、話をしていく中で安心して頂けるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会時に日常の様子を伝えるなど、会話の中での関係づくりに努め、要望や困っていることを伝えやすいようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	フェイスシートを活用したり、ご家族やご本人との面談の中で希望を聞き、必要としている支援を見極めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の状況を見極めながらレクリエーションや日常の会話の中で関係づくりに取り組んでいる。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には、ご本人を交えての会話の時間やご家族との外出の時間を持って頂くなど、共に支えようという思いを大切にしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人、知人の方が来訪された時には、居室にてゆっくりと過ごして頂く環境を整え関係が途切れないようにしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一緒に過ごせる場を作ったり、入居者同士の関係が保てるようさりげなく間に入るなど支援している。		

ふれあいの里グループホームほしおき

自己評価	外部評価	項目	自己評価 (だいちユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了時にも必要に応じて相談を受けるなど、対応している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中で、希望されていることを把握し、毎月の会議で検討し、共有している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	フェイスシート・ご家族との面談や日常の生活の中からも把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝、夕の申し送りや介護記録で現状を把握し共有している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回のカンファレンスで個別のモニタリングを行い、介護計画に反映している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護ソフトが導入され、入居者の一日の様子を入力し、パソコン管理により、情報の共有をし、日々の支援や介護計画に反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族の要望・希望に耳を傾け、柔軟に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域包括支援センターや町内会の協力を得たり、ボランティアを招き楽しめる機会を持っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	当ビル内に内科・整形外科があり、月2回内科の主治医による訪問診療を行っている。		

ふれあいの里グループホームほしおき

自己評価	外部評価	項目	自己評価（だいちユニット）	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	主治医である内科の看護師が週に1回訪れ、会話を交えて、体調や現状を把握してくださっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	日頃から医療関係者と情報交換を行うと共に入院時には介護添書を作成している。早期退院の場合には、ソーシャルワーカーからの連絡をもとにご家族へ連絡し、受け入れ体制をとっている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用開始時に事業所の方針を口頭説明している。入居者が重度化した場合には、早い段階から医師と相談し最良の方法での支援に取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入居者の急変や事故発生マニュアルがあり、指示のもと対応ができるよう取り組んでいる。応急手当のマニュアルの活用と、応急処置の研修受講について考えていく。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害対策体制はできており、年2回入居者参加の避難訓練を実施。地震・水害時の訓練は、一定化しておらず、今後、実施の検討が必要。地域との協力は、日頃から体制作りにも努めている。		

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員が日常の生活の中で意識しながら、声掛けをしている。ご本人の尊厳やプライバシー保護に努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	普段の関わりの中で、何を希望されているかを話せる雰囲気作りにも努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々のペースを大切に、できる限り希望に沿えるよう取り組む努力をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	隔月で訪問美容サービスがあり、それぞれ希望によりカットや髪染めなどされている。		

ふれあいの里グループホームほしおき

自己評価	外部評価	項目	自己評価（だいちユニット）	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	もやしの芽取りを手伝って頂いたり、食事中に料理についての会話をするなど楽しい雰囲気でき事ができるよう努めている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	本社の管理栄養士のもとで栄養バランスを考えた献立となっている。食事量・水分量をチェック表に記入し把握している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは、個々に応じ支援している。定期的に訪問歯科の往診を受けている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表をもとに間隔を把握しながら声掛けや誘導をし、自立に向けた支援を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	起床時牛乳を提供したり、水分チェック表により、水分が足りない時には、提供している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	当日の健康状態を考慮し、週2～3回入浴して頂いている。ご本人の希望に沿うように心がけている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活習慣や体調に合わせてエアコン等を使用し、室温の調整を行い、照明の明るさを考え、リラックスできる環境を整えている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬時には、職員2人で対応し、誤薬防止に取り組んでいる。また、薬の変更時には、職員間で情報を共有し、様子観察を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	レクリエーションは、全員が楽しめるよう提供の仕方を工夫したり、体を動かすものを取り入れ飽きないようにしている。月ごとの行事を計画し、楽しんで頂いている。ユニット合同でも実施している。		

ふれあいの里グループホームほしおき

自己評価	外部評価	項目	自己評価 (だいちユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご家族との外出支援は、常時行っている。天気の良い日には、玄関前で日光浴をしたり、近道を散歩できるように取り組んでいる。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	会社の方針として金銭は、会社立て替え金として買い物に利用している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の希望で、電話を利用できるようにしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間には、TVが視聴できるようソファを置いたり、行事や日常の様子の写真を掲示したり、季節感のある飾りを貼って楽しんで頂いている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事やレクレーション以外は、居間でテレビを見たり、本を読むなど思い思いに過ごされている。また、居室で休まれたりされている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	タンス・ベットなどご家族と相談し、安全に使い慣れたものを利用して頂いている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーになっているため移動に不自由がない。また、各部屋の入り口にはネームプレートを付け、トイレもわかりやすいよう工夫している。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	O190400309		
法人名	株式会社ふれあいケアサービスHD		
事業所名	ふれあいの里グループホームほしおき		
所在地	札幌市手稲区星置1条4丁目2番12号星置駅前メデイカル2階		
自己評価作成日	令和5年10月12日	評価結果市町村受理日	令和5年11月17日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigvogyoCd=0190400309-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和5年10月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>【基本理念】</p> <p>①いつも笑顔で暖かく見守ります。 ②目配り、気配り、心配りを大切にしてチームケアを行って行きます。 ③地域との触れ合いを大切にして穏やかな生活をしていきます。 以上の3点を基本とし毎日のケアに励んでいるホームです。 同ビル1階には内科が有りホームの主治医として日、祝日以外は訪問診療の協力を頂いておりその他、健康状態など色々な相談にのっていただいています。当ホームはJR星置駅から数分の場所の為、ご家族の方にとって交通の便もよく面会が多く有ります。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価（ホーム全体）	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	3項目からなる理念を標榜し、地域密着型サービスの役割を考え実践に努めている。今年度、コロナの終息に伴い、理念の3つ目にある地域との触れ合いが拡がり、サービスの質を高めている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ユニット合同で行った敬老会で、小学生ミュージシャンのボランティアコンサートを行っている。また北海道科学大学看護科の実習生を、3年間連続して受け入れを行っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている			
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	直近の会議では、家族3名と介護医療関係事業者8名・当事業所2名が出席し、当事業所の運営の報告のほか他職種との情報交換が行われるなど、様々な社会資源と協働した会議運営を行っている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市や区の会議の他、ていネット・手稲ケア連絡会に管理者が参加し、協力関係を築いている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	不適切ケア防止委員会を3か月に1度開催し、年に2回これらに係る内部研修を行っている。毎月、身体拘束適正化の取組実施状況確認を行い法人本部へ提出している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている			

ふれあいの里グループホームほしおき

自己評価	外部評価	項目	自己評価（ホーム全体）	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている			
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の意見を受けて、関係者と相談の上、関係の方と一緒に外出する機会を設けた。家族へは日常の様子・体調などについて(介護の仕方)の個人宛お便りを毎月送付している。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の職員会議で出された案件により、本部の月例会議内で運営者に相談し協議している。提案により勤務時間の変更や現場の業務改善に至っている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている			

ふれあいの里グループホームほしおき

自己評価	外部評価	項目	自己評価（ホーム全体）	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている			
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている			
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている			
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自宅のサクランボの木を気にしている利用者には職員が声をかけ、一緒に行きサクランボを収穫したり、意向に沿った支援を行っている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている			

ふれあいの里グループホームほしおき

自己評価	外部評価	項目	自己評価（ホーム全体）	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	会話の中や行動等により、思いや意向の把握に努めている。センター方式の一部を活用する事でより鮮明な気づきにつながっている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている			
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者カンファレンスを全体会議内で毎月行い、モニタリングしている。本人の価値観や視点に立って欲しい事、必要な介護をチームで検討し、介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している			
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回当メディカルビル内の協力医療機関の内科医による訪問診療、毎月の訪問歯科、週1回看護師による健康管理が行われている。契約時に医療に係る支援内容を説明し同意を得ている。		

ふれあいの里グループホームほしおき

自己評価	外部評価	項目	自己評価（ホーム全体）	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている			
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	「入居様が重度化した場合の対応に係る指針」を契約時に説明し同意を得ている。毎日医療が必要となった場合、食事が取れなくなった場合は、他の医療介護施設への移行について関係者間で相談し対応している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている			
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回消防署の協力を得て日中・夜間を想定した火災避難訓練を実施している。通路でつながるライフほしおきと協力体制を築いている。災害備蓄品を確保している。		

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の記録はパソコンに入力し、印刷したものを事務所内で保管してある。利用者への呼びかけは名前や苗字にさんを付けて話しかけている。法人内でスピーチロックなどを防ぐ研修を行っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している			

ふれあいの里グループホームほしおき

自己評価	外部評価	項目	自己評価（ホーム全体）	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の希望も取り入れ誕生日は赤飯やちらし寿司、敬老会では注文したお弁当を食べている。利用者と職員と一緒にかき氷やケーキなどデザートを作っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている			
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者全員の排泄記録を付けており、排便が滞らないよう管理している。トイレへの誘導は利用者の自尊心に配慮した声かけをしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる			
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本は各入居者様が一週間に3～4回は入浴をしている。湯船をまたげなく浴槽に入れない利用者にも職員が2名体制の介助で気持ちよく湯に浸かれるよう取り組みをしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている			

ふれあいの里グループホームほしおき

自己評価	外部評価	項目	自己評価（ホーム全体）	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	車いす利用者も一緒に近隣の庭や団地の東屋で休憩しながら散歩をしたり個別の対応で衣類を買いに行っている。リスクのないように外出計画を立てている。家族と外食や買い物に行く利用者もいる。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている			
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	エアコンや加湿器を使って過ごしやすいいリビングで、楽しくゲームやかるたをしている。季節の飾りと共にイベントの出来事を写真で飾り、会話の話題としている。利用者と職員の笑い声が絶えない明るい共有空間となっている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	カーテンと照明器具が備えつけられた部屋に利用者のなじみの品を持ち込み安心して過ごせる部屋になっている。テレビや家族の写真、本、花を飾っている方もいる。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している			

目標達成計画

事業所名 ふれあいの里グループホームほしおき

作成日：令和 5年 11月 10日

市町村受理日：令和 5年 11月 17日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	26	見直し期間が1年の場合でも、少なくとも6か月で介護目標に関する評価の実施と評価表の作成を期待したい。また、記録システムの「ケース」欄などを活用して介護目標を意識した記録の作成を期待したい。	<ul style="list-style-type: none"> 見直し期間に関係なく、全ての入居者に対し、3か月毎のモニタリング実施と評価表の作成を行う。 記録システムの「ケース」欄に記入する際には、介護計画のサービスNoを引用し、介護計画に関連づけながら作成する。 	<ul style="list-style-type: none"> モニタリング実施時期を確認するチェック表を整備し、毎月管理者と計画作成担当で確認する。 入力端末から簡単に介護計画を参照できることをスタッフに周知し、ケース入力の際には、常に介護計画を意識するように指導を行う。 	6か月
2	23	アセスメントシートの生活歴(B-2)や趣味・嗜好(B-3)の情報を整備し、共有することを期待したい。また、情報の定期的な追記や更新も期待したい。	<ul style="list-style-type: none"> アセスメントシートB-2とB-3部分について、全入居者様に記入されているかを確認する。 モニタリング実施時期に合わせて、アセスメントの見直しも実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> 各ユニット担当者にアセスメントシートを記入してもらい、最後に管理者と計画作成担当で確認する。 モニタリング評価表の作成時にアセスメントシートも見直し、追記や更新が無いか確認する。 	1か月
3					
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。